



今回のひよこのみずあびは、「支援をつなぐ」です。
入園や進級を控え、保護者の方も、期待と不安が入り混じる
ような気持ちをお持ちかもしれません。
新たな環境でよりよいスタートがきれるよう、裏面では具
体的な手立てや、関わり方を紹介させていただきます。

《支援をつなぐ》

4月からの新年度に向けて、お子さんの成長を喜びつつも、新たな環境でスタートをきることに不安で心が揺れ動いている保護者の方もいらっしゃるかと思います。それはお子さんも同様で、新しい環境への期待とともに、戸惑いがあると思います。そこで、お子さんの不安や戸惑いを軽減するために、周りの大人が協力して《支援をつなぐ》ということが大切になります。

幼稚園や保育園に入園する場合、入園前の面接や準備期間に、お子さんの家庭での様子を伝えておきましょう。苦手なことだけでなく、大人が配慮することでスムーズにできる方法を伝えることが、お子さんにとって楽しい活動を準備する手だてとなります。「ふれ合い遊びが好きなのでほめる時には、くすぐる等のスキンシップをすると効果的です。」「初めての場面や場所では緊張しがちだけど、〇〇と声をかけると安心できます。」などの具体的な様子は、進路先の先生が、どんな援助があれば安心して過ごすことができるのかを把握できる情報となります。

『こんなことを伝えたら先生を身構えさせてしまうかも…』などと心配せずに、小さなことでも伝えていくことを心がけて、まずはお話してみましよう。

就学を控えているご家庭は、すでに《チューリップシート》を就学先の学校に提出し、お子さんの様子を伝えていることと思います。区立の小学校では1月から就学前健康診断を実施しており、その際に、個別に相談をする機会を作っていただくという方法もあります。

その際は、「場面の切り替えが苦手なので、急に切り替えようとするとパニックになります」など、行動の特徴を伝えるだけでなく、「何かに没頭している時に、『もう おしまい』と急に言われると、混乱して大声を出してしまいます」など、どんな場面でどうなるのかがわかる具体的なエピソードをまじえて、伝えていくとよいでしょう。また、ゲームをする前に、「負けて悔しい時にはジャンプをしよう」と約束をしたら、負けても怒らずにいられた等の、代替案も伝えていくことは、お子さんが安心して過ごしていくための大切な情報となります。

お子さんも保護者の方も安心して楽しい毎日を過ごしていけるように、支援をつなげていきましょう。

機関誌『ひよこのみずあび』は
足立区役所ホームページ (<http://www.city.adachi.tokyo.jp/>)
幼児発達支援室ひよこ（障がい福祉センターあしすと通所事業）
にアクセスすると掲載されています。



ビューティフル
ウィンドウズ
SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

4月からの新生活をスムーズに過ごすために

お子さんが安心と自信を持って生活していくためには、お子さんに合った、わかりやすく安らげる生活環境を作っていくことが大切です。お子さんによっては、耳で聞くよりも目で見る情報の方が伝わりやすいこともあります。よく言われている「ほめて伸ばす」ことは大切ですが、ほめ方によってはうまく伝わらないこともあり、周りの大人や環境をお子さんに合わせ工夫していくことが大切です。そこで具体的な方法や、対応の仕方について紹介いたします。

☆絵・写真カードでわかりやすく伝えましょう☆ ～スケジュール表で見通しを持つ～

「ここに座って」「少し待って」など、“ここ”や“少し”という話しことばでは、どこをさすのか、少しがどのくらいの時間なのかを理解することが難しい子もいます。そのような時には、絵や写真を使ったカードが有効です。

絵カード、スケジュール表を使うポイントは？

【絵カード】絵や写真の視覚情報で、物の置き場所や欲しい物、やってほしいこと等を伝えられます

◎初めて絵カードを使う時は、実際に活動をしている時に使ってみましょう。

カードが示す内容と活動が同じだとイメージを持てるのが大切です

【スケジュール表】絵カードを組み合わせて、次にすることや、行動の手順がわかるようにします

◎見通しを持って準備をしたい時には一覧式の表を使いましょう。

例→すべての手順が見られることで、先の見通しをもつことができます。

◎ひとつずつ確認したいお子さんは卓上式を使いましょう。

例→ひとつの手順が終わったらめくれるようにします。絵カードを1枚ずつ確認できるので、ひとつの手順に集中して取り組むことができます。



◎時間の概念を伝えたいときはカードの大きさを利用しましょう。

例→15分を1cmとして時間の長さをカードの大きさで表す。



☆肯定的、具体的に伝えましょう☆

好ましくない行動を伝える時は、「～しないで」「～しちゃだめ」と否定的な伝え方だけになると、子どもはどうしたらいいかわかりません。行動を否定するのではなく、「～しましょう」と具体的に伝えるようにして、肯定的な伝え方を心がけましょう。

伝え方のポイントは？

◎否定でなく肯定で伝えましょう…「ここで遊んじゃダメ」 → 「リビングで絵を描こう」

◎直接的な言葉で伝えましょう…「いつやるつもり？」 → 「いましましょう」

◎その子が理解できる言葉に置き換えましょう…少し急いでほしい時 → 「電車でいこう」

静かにしてほしい時 → 「1の声で話そうね」

子どもはひとりひとり違うので、紹介する例はあくまでも一例です。家庭と先生とで対応の仕方を共有することで、それぞれのお子さんに寄り添った支援をつなぐことができると思います。